

【土浦市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（令和3年1月）等を踏まえ、土浦市では目指す学びの姿を「情報や情報機器を主体的に選択し活用するとともに、情報を積極的に発信することのできる児童生徒」とする。具体的には、児童生徒が情報モラルや情報セキュリティの知識を身に付けるとともに、デジタルドリル等を活用しながら自分の関心や理解度に合わせて学習し、自分の考えを適切にアウトプットできることを目指す。

2. GIGA第1期の総括

土浦市では、1人1台端末の整備、校内通信ネットワークの整備を進めてきた。また教職員を対象としたICT活用研修を通して、授業における活用を促進してきた。教職員対象のICT活用指導力調査では、1人1台端末を利用して「児童生徒一人一人の習熟に応じた課題に取り組ませる」ことや「比較検討させるために児童生徒の意見を効果的に提示する」ことに約9割の教職員が「できる/ややできる」と回答している。

授業では、児童生徒が日常的に1人1台端末を活用し、プレゼンテーションソフトを用いて自分の考えをまとめ、発表したり、デジタルホワイトボードを活用して、互いの考えを交流することで自分の考えを深めたりするなどの、協働的な学びを進めてきた。

また、家庭学習においても、児童生徒が興味や関心があることを調べ、知識を深めたり、自分の学習理解度に合わせて、デジタルドリルの課題に取り組んだりするなど、個別最適な学びを推進させてきた。

しかし、自分の考えをコンピューターを使って発表することに苦手意識をもっている児童生徒もいる。今後、教職員のICT活用指導力をさらに高めていくことにより、授業において児童生徒同士が互いの考えを交流する場面、考えを発表する場面を増やしていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

端末の利活用を進めていくにあたり、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持していくと共に、1人1台端末の利活用方策として以下について検討していく。

- ・教職員向けのICT活用指導研修を実施し、具体的な活用方法についての助言。
- ・ICT支援員を計画的な配備による、ICT活用に苦手意識をもつ教職員へのサポート。
- ・各校の実践事例を紹介することを通じた、効果的な活用についての情報共有と授業改善。
- ・不登校児童生徒への学習支援。
- ・希望する児童生徒への端末を活用した教育相談。
- ・外国人児童生徒に対しての学習活動等の支援。
- ・障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じた支援。